

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎗木町 198-3
電話 (043) 485-1801

今年の正月----- 阿部 豊 今年もどうぞ----- 松山 洋子
描の桜紀行----- 榎本 喜三郎 テレビ中継に熱中----- 外山 文彦

佐倉市民カレッジで人間力を学ぶ

白濱 敏則

平成 27 年度の佐倉市民カレッジが、本年 2 月 13 日に修了式を終えた今、一年間を振り返ってみたい。一言で表現すると、人生がポジティブになった。

昨年 4 月の抽選会でピンポン玉を引き上げていただき、佐倉市民カレッジに入学した。5 月から授業が開始された。

テストはなく、課題を一つ一つこなした。佐倉に 30 年間もお世話になつていのに、歴史、自然、環境の項目で知らない事が多く、新発見の連続であった。興味津々で授業に臨み、実に新鮮で楽しい。

講師の方々も専門の先生だが、難しい内容を分りやすく笑顔で講義してくださるので大変助かっている。講義内容が自然と脳裏に刻まれる。

私達の年齢層は 50 代、60 代、70 代だが、担任の先生はとて

もやさしく、笑顔で、エネルギーが豊富であり、幅広い指導には頭が下がる思いである。公民館の職員の皆様も親切に応接して下さるので、感謝で一杯である。

主な行事では 10 月のスポーツフェスティバルでの応援合戦、11 月の文化祭での演目発表、12 月の小学生との世代間交流等々で熱が入った。お蔭でクラス内の団結力も強まり、級友との親密度も深まり、名前前で呼び合う仲間も増えてきた。現役時代では考えられないことである。

諸先輩方とはハイキングクラブを通して絆も深まり、諸先輩方への尊敬の念も強まり、感謝で一杯である。

平成 28 年度の始業式までは約 1 カ月あるが、市民ハイキングでの担当月の幹事としての準備をしたり、まちづくり

のプランを作成したりと課題が目白押しである。これも人間力を高めるために通らねばならない関所である。困難を楽しみに変え、喜びとしたい。市民カレッジ生として学ばせていただいていることに對して、この『なかま』の紙面を通して、市民の皆様から御礼を申し上げたい。学んだことを生かして地域の皆様のために役に立てるよう活動することで恩返ししたい。

(編集委員)



今年の正月

この正月は、初めて娘一家（孫達）が我が家に来ず、代わり私達が3日から孫達の家に行き、暫く滞在した。

今までと変えたのは、昨春に孫が保育園から幼稚園に変わったが、幼稚園は8日にならないと始まらない。このままでは娘は働きに行けないので、私達が孫の相手を頼まれたからである。

遊び相手専任が二人も来たから、孫のテンションはどんどん上がり、食事の時間以外は休みなく、お相手をするこ

とになった。
疲れさせれば昼寝をするかと、公園に連れ出し、ボール蹴りやかけっこをしたが、こちらの息が先上がり、私が昼寝したい気分だった。パウ―ではもう太刀打ちできない。孫は喜んでくれたし、私達も楽しく、成長も実感できたが、僅か5日間のお相手

された。特に妻は遊ばせ方がうまいので、孫が次々とおねだりし、千葉に帰った時は疲労困憊だった。

妻は「私達が人気者の時間は短いよ」と言う。友人に聞いても「孫が喜んでくれるのは小学校低学年まで」と言われる方が多い。

昨夏、一緒に旅行した時には、朝から晩までつきまとってくれたが、寝る時に「今晩は一緒に寝ようよ」と誘っても、寝るのはいつも親と一緒にの部屋であった。

私達は、一時的なお助けマン。束の間の脇役だ。

これから4、5年、この役目を果たすには、何より元気なことが前提だ。

そのためには、これからジムに行こうかな…。

それから物忘れ防止に脳トレドリルも買わなくちゃ。

（西志津 阿部 豊）

今年もどうぞ

ジロボウエンゴサク。名前がいい。昔伊勢地方で、子供がスマレを太郎坊、この草を次郎坊と呼んで、互いの距を引つ掛けて遊んだことからの命名だという。早春、雑木林の縁や斜面に、薄紫や淡いピンクの小さな花をつける。草丈は10〜20cmと低い。シルバ―がかつた深い切れ込みのある葉もまた繊細で美しい。春は名のみ山で、厚い落ち葉を割って顔を出し、俯き加減に群れて咲くジロボウエンゴサクに出遭ったら、誰しも自然に笑みがこぼれる。お隣にタロボウのスマレが並んでいたりと、嬉しさはたちまち倍増だ。

このジロボウエンゴサクが数年前、我が家にもやってきた。花好きのご近所さんからタツナミノソウを一株頂いた折、紛れ込んできた。増えたタツナミノソウを株分けしたり、寄

せ植えとして他の草花と組んだり、植え替えた土の使い回しをしたりしているうちに、ジロボウエンゴサクもあれよあれよと広がってしまった。

花が終わると葉は早々に枯れてしまい、地上部には何も残らない。しかし、地中には古い塊茎の上に重なって出来た今年の塊茎が残り、来年の発芽を待つのだという。そういえば、熟した実も、ちょうどホウセンカのように勢よく弾け飛んで種を撒き散らす。今冬も12月頃から姿を見せ始めた。さらに数を増して。

冬枯れの殺伐とした庭にも、葉を落とした裸のアジサイの鉢の中にも…。確かに狭い我が家の庭を思えば増えすぎだ。それでも私は抜けない。そんな酷なこと出来るわけがない。「ジロボウよ。今年もどうぞ咲いておくれ」となる。

（大蛇町 松山 洋子）

点描の桜紀行

春山は笑うよう

夏山は滴るよう

秋山は粧うよう

冬山は眠るよう

中国の古典にこの一節がある。

昨年訪れた信州・高山村は、まさに笑うようであった。

満開には少し早かったが、孤高の桜はどれも華やかで美しく、見惚れてしまうほどだった。

そこかしこにリンゴ、桃、コブシなど、木々の花も咲き、野辺にはスマイレ、菜の花、諸葛菜など咲き乱れ村内を歩けば歩くほど、体に足に花がまわりつくよううで花酔いするほどだった。

ここ信州・高山村は「日本で最も美しい村」のひとつに数えられ、村内には20本のしだれ桜が咲き、その半数は樹齢200年〜600年の歳月

を経た老樹ばかりである。

なかでも雪の妙高山をバックに古木の風格とやさしさをただよわせ、滝のように咲き誇る、樹齢250年の「水中のしだれ桜」。

扇状地の山間の里に咲き、鄙ひなにまれなる気高さを感じさせる、樹齢500年の「黒部のエドヒガン桜」。

谷の縁にあつて老樹の風格をあたり一面になびかせるように咲く、樹齢600年の「坪井のしだれ桜」など、悠久の歴史を生きてきた桜は素晴らしく艶やかで、魂が揺さぶられるようなものばかりであった。

山村の原風景のなか、のんびりゆったり歩き、久しぶりにゆとりとやすらぎを覚え、芭蕉の「ひと里は みな花守の子孫かや」を肌で感じた心地よい旅だった。

(西志津 榎本 喜三郎)

テレビ中継に熱中

昭和30年代半ばのことだ。

自宅の白黒テレビが映す、プロレス中継に向かって、母親が大声で声援を送っていたのを昨日のように覚えている。

シャープ兄弟に始まり数多く来日した外国人レスラー、なかでも銀髪の悪役レスラー、ブラッシーのかみつきに、日本のエース力道山が空手チョップで応戦。会場は大きくどよめき、歓声は一層大きくなった。

敗戦から10余年、外国人を倒す白熱する試合ぶりに日本中が大いに沸き立ったものだ。また、昭和39年10月10日から行われた東京オリンピックの時にも、テレビの前に釘づけになっていたのを記憶している。

その頃は「巨人、大鵬、卵焼き」の時代。大鵬と柏戸の対決や、夏のうだるような暑さの夜の野球の実況中継、

「え〜なんと申しませうか」の名台詞の小西得郎の力こもった解説や球場のざわめきが耳に入ってきたものだ。

また、長嶋選手が天覧試合で阪神の村山投手からサヨナラホームランを打った場面は、強烈な思い出として残っている。

高度成長期で駆け上がっていく最中だった当時の日本、生活はまだ質素で娯楽も限られていたけれど、人々は今より熱かったような気がする。楽しかった時代だった。

さて今年にはリオのオリンピックの開催年。4年後には、東京に於いて2度目の夏のオリンピック・パラリンピックが予定されている。

健康に留意して、その時はテレビの前で「ガンバレ日本、ガンバレ日本!!」と応援しましょうかね。

(大蛇町 外山 文彦)

4月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL: 043-485-1801 FAX: 043-485-1803

〒285-0025 佐倉市鐺木町 198-3

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp

URL: http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html

『なかま』は佐倉市民カレッジの学生と卒業生で構成される編集委員が編集し、市民カレッジ情報コースの卒業生が文字入力を行っています。

さくら道

今年も桜の季節が巡ってきた。佐倉市は「サクラ」の名に恥じず、桜の木が多いと感じるのは私だけであろうか。

我が家の老犬（推定17歳）が健脚だった頃、1時間位の散歩をしていたが、その道筋にも沢山の桜の木があった。

まず季節に先駆けて「河津桜」が近所のお寺の庭に咲く。

次に「ゆうゆうの里」の奥まった庭にある「しだれ桜」が咲き始める。老木であるが、

それは見事な枝ぶりである。

「そめい吉野」は、佐倉高校の土手やマンション、個人宅の敷地にも咲いており、畜衛生研究所の道沿いには桜並木がある。旧堀田邸の庭の桜も、散歩の途中の目を樂しませてくれる。そして最後に裁判所、検察庁の桜を見ながら我が家に向かう。

「河津桜」のお寺には「八重桜」もあり、季節の終わりを知らせてくれる。

（猪俣 民子）

あとがき

佐倉市の市の木は桜、市の花は花菖蒲です。昭和46年に一般公募で選ばれました。花菖蒲は、アヤメと同様、アヤメ科になりますが、シヨウブはサトイモ科になります。

ところで、菖蒲という漢字は、シヨウブと読むほかにアヤメと読むことがあります。何故、菖蒲をアヤメと読むのかと思って、植物の語源について書いてある本で調べてみ

ると、奈良時代に宮廷に仕えた漢女が端午の節会（せちえ）で菖蒲の蔵人（くらひんど）をしていたことから、菖蒲をアヤメというようになったのではないかとことです。

4月は、ふるさと広場で、チューリップ祭り。いろとりどりのチューリップが見物客の目を樂しませてくれます。6月は、城址公園の花菖蒲。佐原でも、花菖蒲を呼び物にした「あやめ祭り」が開催されます。

（金井 義彰）